

創刊110周年記念

誇れるふるさと

24地区リレー

〈vol.8〉

〈小野③ 小学校歌〉

2024年に開校150周年を迎える小野小(菊池直樹校長)。校歌は、小野村が宇部市に編入合併する2年前の1952(昭和27)年12月に制定された。未来への期待を抱かせる校歌として、児童の心にしつかりと刻まれている。

厚東川ダムや平原岳の景色表現

校歌

一 窓に明るい 日を受けて
厚東の水に 影よせる
学びの庭の 朝風に
みんなで 励む この歓喜
ああ小野 ああ小野
われらの小学校

二 空の緑の すそをひく
平原がたけ 仰ぎ見て
やさしく強く 朗らかに
みんなで 伸びる この希望
ああ小野 ああ小野
われらの小学校

三 鳩のよびがう 故郷の
いのちあらたな 道をゆき
輝くあすを 語りつつ
みんなで 築く この使命
ああ小野 ああ小野
われらの小学校

「美しく歌う」伝統の発声練習



小野小学校

作詞は、46〜52年に校長を務めていた富永政雄さんが、懇意だった小野出身の詩人、和田健さん

に依頼。作曲は元山口大の授業開始前に発声練習教授で、恩田小の校歌も手掛けた県音楽教育連盟初代会長の弘中策さんが担当した。小野小の教諭だった平山智昭さん(92)は、1番の「厚東の水に影よせる」という歌詞は、50年3月に完成した厚東川ダムの景色を表現したものではないかと推測している。

2番には地元住民が誇る標高395mの平原岳、3番には小野湖で羽を休めるハトの様子を捉っており「湖と山に囲まれた豊かな自然環境を表す歌詞が、小野小らしい」と回想する。

同校には、児童が音楽の授業開始前に発声練習を行う伝統がある。約10年前に当時の音楽教諭の提案で始めた。以降、校歌はただ単に大きな声を張り上げるのではなく「美しく歌う」ことを意識するようになった。学校教育目標「自分を愛し、人を愛し、志に向かって自ら歩む小野っ子の育成」を体現するかのよう

に優しく、爽やかに歌い上げる。

菊池校長は「校歌は小さい頃の記憶をよみがえらせてくれる。成長してもメロディーを忘れず、歌詞から古里の風景や友を思い出してほしい」と願う。